

- 問1 江戸幕府が結んだ不平等条約において、日本が「領事裁判権（治外法権）」を認めたことで生じた具体的な問題点として、最も適切な説明はどれですか。（2016年 山形県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 日本国内で外国人が犯罪を犯しても、その国の領事による甘い判決しか下されない恐れがあった。 | 2. 外国人が日本の土地を永久に借り受け、そこを自国の領土のように扱うことを認めさせられた。 | 3. 日本に輸入される外国製品に対して、日本側が自由に高い関税をかけることができなくなった。 | 4. 日本が特定の国に対して有利な条件を与えると、他の国にも自動的に同じ条件を認めさせられた。 |
|---|--|--|---|
- 問2 1858年に結ばれた日米修好通商条約は、日本にとって不利な内容が含まれていたため不平等条約と呼ばれます。その内容のうち、日本側に「関税自主権がない」という状態について、正しく説明しているものはどれですか。（2019年 高知県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------------------------------|-------------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 輸出入の取引を、幕府が許可した商人だけに限定すること | 2. 外国人が日本で罪を犯しても、日本側の法律で裁くことができないこと | 3. 特定の国に対して、他国よりも有利な条件を自動的に与えること | 4. 輸入品にかかる税率を、日本側が自由に決めることができないこと |
|-------------------------------|-------------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|
- 問3 1867年、二条城において第15代将軍徳川慶喜が家臣に決意を伝え、政権を朝廷に返上することを申し出ました。この歴史的出来事を何といいますか。（2024年 青森県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|---------|------------|---------|
| 1. 廃藩置県 | 2. 版籍奉還 | 3. 王政復古の号令 | 4. 大政奉還 |
|---------|---------|------------|---------|
- 問4 19世紀のアジアにおいて、欧州列強による支配が強まる中で起きた出来事について、インドでの事例として正しい名称を選びなさい。（2022年 京都府公立入試 類似）
- | | | | |
|-----------|----------|----------|-------------|
| 1. インド大反乱 | 2. 権利の章典 | 3. ロシア革命 | 4. フランス人権宣言 |
|-----------|----------|----------|-------------|
- 問5 1854年、アメリカのペリーが再び来航した際に江戸幕府が締結し、静岡県の下田と北海道の箱館（函館）の2港を開くことを定めた条約は何ですか。（2017年 香川県公立入試 類似）
- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-------------|
| 1. 日米和親条約 | 2. 日露和親条約 | 3. 日清修好条規 | 4. 日米修好通商条約 |
|-----------|-----------|-----------|-------------|
- 問6 19世紀前半、イギリスはインドや清（中国）との間で、銀の流出を防ぐために「三角貿易」と呼ばれる仕組みを構築していました。この貿易において、イギリスからインドへは綿織物が送られ、清からイギリスへは茶や絹が輸出されていました。この際、清の貿易黒字を解消し、イギリス側の銀の不足を補うために、インドから清へ輸出されてアヘン戦争の直接的な原因となった品物はどれですか。（2022年 佐賀県公立入試 類似）
- | | | | |
|------|-------|--------|--------|
| 1. 銀 | 2. 砂糖 | 3. アヘン | 4. 香辛料 |
|------|-------|--------|--------|
- 問7 ペリー来航後の江戸幕府の対外政策の変化について述べた説明のうち、1854年に締結された条約の内容とその背景として最も適切なものを選びなさい。（2022年 奈良県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 強硬な姿勢で来航したアメリカの要求に対し、戦争を回避するため、燃料や食料の供給を目的として二港を開き、開国へと踏み切った。 | 2. 清との間に対等な立場での国交を樹立し、欧米諸国からの圧力に対抗するための東アジア外交を優先させた。 | 3. アメリカに領事裁判権を認め、日本側の関税自主権を喪失した不平等な条約を結び、五つの港で自由な貿易を開始した。 | 4. 異国船打払令を強化することで外国船を排除し、天皇を中心とした攘夷運動を支援することで幕府の権威を立て直そうとした。 |
|--|--|---|--|
- 問8 1859年に横浜などの港が開かれた後、日本から最も多く輸出された品物と、当時の日本と外国との金銀交換比率の差によって国外へ大量に流出した貴金属の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2024年 福岡県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------|---------|---------|--------|
| 1. 生糸・銀 | 2. 綿糸・銀 | 3. 生糸・金 | 4. 茶・金 |
|---------|---------|---------|--------|
- 問9 19世紀のイギリス・インド・中国の三か国間で行われた貿易の構造について、中国側の経済状況を説明した文として最も適切なものはどれですか。（2023年 山口県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. イギリスとの直接貿易において、中国産の茶の需要が激減したため、不足する銀を補うためにインドへ金を輸出するようになった。 | 2. イギリスへ茶や絹を輸出した対価として、イギリスから工業製品である綿織物を大量に受け取り、国内の産業が活性化した。 | 3. インドからアヘンが密輸入されたことで、その支払いのために国内から大量の銀が流出し、国家財政や経済に深刻な打撃を与えた。 | 4. インドへ綿花を輸出する代わりに銀を受け取る貿易ルートを確立し、その銀を用いてイギリスから軍艦などの兵器を購入した。 |
|--|---|--|--|
- 問10 1840年に始まったアヘン戦争において、隣国である清がイギリスに敗北したという情報を得た江戸幕府は、これまでの対外政策を転換しました。1842年、それまで出されていた異国船打払令を緩和し、漂着した外国船に対して燃料や水、食料などを与えて穏やかに退去させることを命じた法令を何といいますか。（2025年 沖縄県公立入試 類似）
- | | | | |
|-----------|-----------|----------|----------|
| 1. 異国船打払令 | 2. 慶安の御触書 | 3. 薪水給与令 | 4. 武家諸法度 |
|-----------|-----------|----------|----------|
- 問11 幕末の開国にともなう貿易の開始は、当時の日本経済に激変をもたらしました。特に、安価な綿製品の輸入が日本の社会に与えた影響とその背景について、正しい説明はどれですか。（2016年 福岡県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 海外から安価な綿織物や綿糸が流入したことで、国内の綿花農家や織物業者が苦境に立たされた。 | 2. 幕府が綿織物の輸入を奨励したことで、国内の農家は綿花栽培から生糸の原料となる養蚕へ一斉に転換した。 | 3. 日本産の綿織物が海外で高く評価されたため、輸出が急増して国内の綿製品が不足した。 | 4. 輸入された綿織物に高い関税をかけることで、国内の伝統的な綿織物産業は手厚く保護された。 |
|---|--|---|--|
- 問12 幕末の政治情勢において、大老の井伊直弼による反対勢力の弾圧と、その反動として発生した井伊直弼暗殺事件、および薩摩藩が外国の軍勢力を痛感し方針転換するきっかけとなった出来事を、発生した順に正しく並べたものはどれですか。（2017年 鹿児島県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 1. 安政の大獄 → 桜田門外の変 → 薩英戦争 | 2. 安政の大獄 → 薩英戦争 → 桜田門外の変 | 3. 桜田門外の変 → 安政の大獄 → 薩英戦争 | 4. 薩英戦争 → 安政の大獄 → 桜田門外の変 |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
- 問13 1858年に結ばれた日米修好通商条約は、日本にとって不平等な内容を含んでいました。その不平等な点についての説明として正しいものはどれですか。（2020年 香川県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 日本がアメリカ人の犯罪を日本の法律で裁く権利を確立したが、日本国内の関税をアメリカの同意なしに変更できなかった。 | 2. 外国人が日本で罪を犯しても日本の法律で裁けない「領事裁判権」を認め、日本に「関税自主権」がなかった。 | 3. 日本がアメリカに対して領事裁判権を行使できる一方で、アメリカ側に輸出入の関税を決定する権利を認めた。 | 4. 日本がアメリカから「最恵国待遇」を一方向的に受ける代わりに、アメリカにのみ自由な貿易拠点としての港を提供した。 |
|---|---|---|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 日本国内で外国人が犯罪を犯しても、その国の領事による甘い判決しか下されない恐れがあった。	領事裁判権が認められていると、加害者側と同じ国籍の領事が裁判を行うため、日本人被害者にとって著しく不公平な判決が下される事例（ヘスベリア号事件やノルマントン号事件など）が起きました。このように、自国の法律で外国人を裁けないことは、国家の独立性において深刻な課題となりました。他の選択肢は、関税自主権の欠如や最恵国待遇、租借地に関する説明です。
問2	答え 4 輸入品にかかる税率を、日本側が自由に決めることができないこと	関税自主権がないとは、輸入品にかかる税金（関税）の割合を自国で決定できず、相手国との協議によって決めなければならない状態を指します。これにより、安い外国製品が大量に流入し、当時の日本の国内産業が打撃を受ける要因となりました。なお、外国人を自国の法律で裁けないことは「領事裁判権（治外法権）」の説明です。
問3	答え 4 大政奉還	江戸幕府が政権を維持することが困難になったため、徳川慶喜が自ら政権を朝廷に返すことを決断した出来事です。これにより鎌倉時代から続いた武家政治が終わりを迎えました。誤答の「王政復古の大号令」は、大政奉還の直後に朝廷側が出した宣言であり、天皇中心の政治に戻すことを示したものです。
問4	答え 1 インド大反乱	19世紀の世界では、産業革命を成し遂げた欧米諸国がアジアやアフリカへ進出し、植民地を広げていきました。インドでは1857年に、それまでのイギリスによる過酷な支配や文化への不理解に対する不満が爆発し、インド大反乱が起きました。これは単なる兵士の反乱にとどまらず、インド全土に広がる民族的な抵抗運動となりました。
問5	答え 1 日米和親条約	ペリーの来航を受けて締結されたこの条約により、日本は約200年続いた鎖国政策を終えて開国しました。この条約では、遭難した船員の救護や、船への薪水（燃料や水）・食料の供給を目的として、下田と箱館の2港を開くことが決められましたが、この段階ではまだ自由な貿易は認められていませんでした。
問6	答え 3 アヘン	イギリスは清から茶や絹を大量に輸入したため、支払いのための銀が清へ流出していました。これを逆転させるため、植民地のインドで作らせたアヘンを清へ密輸出させ、その代金として銀を回収しました。清の政府がアヘンの没収や廃棄などの厳しい取り締まりを行ったことに対し、イギリスが軍隊を派遣したことでアヘン戦争が始まりました。
問7	答え 1 強硬な姿勢で来航したアメリカの要求に対し、戦争を回避するため、燃料や食料の供給を目的として二港を開き、開国へと踏み切った。	ペリーの強力な軍事力を背景とした開国要求に対し、幕府は国家の安全を優先して鎖国を断念しました。この段階での条約はあくまで「和親（友好）」と「補給」が目的であり、貿易についてはまだ認められていませんでした。自由貿易や領事裁判権といった内容は、4年後の日米修好通商条約において規定されます。
問8	答え 3 生糸・金	幕末の開国にともなう貿易において、日本からは生糸や茶が主要な輸出商品となりました。中でも生糸は、当時のヨーロッパでカイコの病気が流行していた背景もあり、最大の輸出額を記録しました。また、当時の日本では金と銀の交換比率が外国と異なり、海外に比べて金が安く設定されていたため、利得を狙った外国人によって大量の金が国外へ持ち出される事態となりました。
問9	答え 3 インドからアヘンが密輸入されたことで、その支払いのために国内から大量の銀が流出し、国家財政や経済に深刻な打撃を与えた。	三角貿易の成立により、中国ではアヘンの吸飲が広まり健康被害が深刻化しただけでなく、アヘンの代金として銀がインド・イギリス側へ逆流するようになりました。それまで茶の輸出で蓄積されていた銀が大量に流出したことで、中国（清）の経済は混乱し、清政府がアヘンの取り締まりを強化したことがアヘン戦争の直接的なきっかけとなりました。
問10	答え 3 薪水給与令	アヘン戦争での清の敗北は、当時の江戸幕府に大きな衝撃を与えました。強大な軍事力を持つイギリスとの武力衝突を避けるため、幕府は1825年に出していた、外国船を無差別に攻撃して追い払う「異国船打払令」を事実上撤回しました。これに代わって、人道的な観点から「薪（まき）」や「水」などの補給を認める「薪水給与令」を発令し、対外的な緊張を和らげようとした。
問11	答え 1 海外から安価な綿織物や綿糸が流入したことで、国内の綿花農家や織物業者が苦境に立たされた。	産業革命によって機械で大量生産された安価な綿織物や綿糸が輸入されたことは、日本の伝統的な産業構造を揺るがしました。これにより、それまで自給自足や国内市場向けに生産していた綿花農家や織物業者は、輸入商品との価格競争に勝てず、経済的な打撃を受けました。一方で、輸出の主力となった生糸の生産農家は好景気に沸くなど、産業によって明暗が分かれる結果となりました。
問12	答え 1 安政の大獄 → 桜田門外の変 → 薩英戦争	大老の井伊直弼は、日米修好通商条約の無断調印などに反対する人々を「安政の大獄」で厳しく弾圧しました。これに反発した水戸藩の元藩士らが、1860年に「桜田門外の変」を起こして井伊を暗殺し、幕府の権威は大きく失墜することになります。その後、生麦事件の報復として1863年に発生した「薩英戦争」で、薩摩藩はイギリスの圧倒的な軍事力を目の当たりにし、武力による攘夷の不可能を悟って、イギリスへの接近と倒幕への道を選択しました。
問13	答え 2 外国人が日本で罪を犯しても日本の法律で裁けない「領事裁判権」を認め、日本に「関税自主権」がなかった。	この条約では、日本国内で罪を犯した外国人をその国の領事が裁く「領事裁判権（治外法権）」を認めさせられ、さらに日本側が輸入品にかかる税率を自主的に決める「関税自主権」が認められていませんでした。これらの条項の改正は、明治政府の長年の課題となりました。